



あかびら火まつりの火文字（赤平市）

道経連会報 No.293 CONTENTS

巻頭言	1
2025年度 国の施策及び予算に関する要望活動について	2
2024年度 地域会員懇談会を開催（後志地域・函館地域）	11
常任理事会レポート	13
会員企業紹介	20
会員の異動	22
新会員企業紹介	24
グループ活動報告	28
人事・労務相談日	39
北海道の経済動向	40
道経連カレンダー	42
事務局人事	42
Face to Face	42
わがまち紹介（赤平市）	44



北海道経済連合会 常任理事

朝倉由紀子

SOC株式会社
代表取締役社長

世界をつなぐ架け橋に

これは私が幼い頃に抱いた夢の一つです。私は、中学から大学まで卓球部に所属しており、中学2年生の時に「オリンピックに出て、卓球で将来世界をつなぐ仕事をしたい」と本気で思っていました。当時、荻村伊智朗さんの著書を読み、こんな風にスポーツで国と国をつなげられるような人になりたいと憧れたことがきっかけでした。ただ残念なことにその後、私の卓球の腕前は上がらず、試合になると緊張で腕が動かないという事象に悩まされ、あっけなく夢は消えていきました。

さて、私はSOC株式会社というシステム開発会社を創業者である父から9年前に承継し経営しておりますが、子供の頃からITや会社の経営に興味があったわけではありません。私にとってITは得意か苦手かと言えば大の苦手であり、好きか嫌いかで言うと好きではありません。というのも3度挫折を経験しており、まずは小学生の頃、算数の宿題を父から教わったのですが、習っていないxの記号を使うので、全く理解できずに大泣きしたことが今でも鮮明に悲しい記憶として残っています。それが、IT(理系)についての第一の挫折だと思っております。それからも算数の苦手意識は変わらず今に至ります。

第二の挫折は、大学4年の就職活動です。様々な会社を受けましたが、当時SOCの説明会に参加し、ぜひ入社したいと思い採用試験を受けましたが、筆記試験であつという間に不採用となりました。その時、やはり私はITには向い

ていないのだと実感した次第です。

そして第三の挫折は、SOCへスタッフ職として転職し、新人研修を受けた時です。システム開発の技術研修があったのですが、ついていけず、隣の同期につきっきりで教えてもらっても理解できないので、つくづく自分には開発業務は無理なのだと感じた出来事となりました。

それでも、私はこの会社が大好きですし、ITの分野に会社として携わっていることをとても誇りに思っております。自分がIT全般において苦手なこともあり、とても重要な数々のシステムを社員達が立派に作ってくれていることにいつも尊敬の念を抱いております。そして、会社を支えている若手からベテランまで様々な社員達が、私にとって家族であり子供のように愛おしく感じております。本当に有能でいつも力になってくれる社員ばかりですが、なかなか調子が出ずに悩んでいたり、体調の問題で思うように仕事ができない、そんな社員も少なからずおります。うまくいかない時は見守りつつも何か助けられることはないかと考えたり、開発業務が向いていないなら、他に活躍できることはないだろうか、と考える日々です。様々な意見もあると思いますが、現在10年目となる北海道労働委員会の使用者委員の経験も通して、会社にとって一番大切なのは、そこで働く社員であると実感しております。だからこそ、会社も社員が安心できる場所であってはいけませんし、継続していかなければなりません。現在、SOCは設立から45年となりました。父が大事にしてきた、「企業は人なり」「人が第一」という想いをこれからも引き継いで参ります。そして、4月に弊社は「S-LABO」という新拠点を開設しました。今までのSOCからも一歩踏み出し、新しくチャレンジしていく場となりましたが、一番はそこでたくさんの「Smile」が見られる場所にしたいという私の想いがあり、そんなオフィスづくりにこだわりました。益々、社員が来なくなる会社にしていきたいと思っています。

また、今年の7月よりマレーシアのダマンサラ・プルダナに駐在員事務所を開設しました。こちらでは、日本で仕事の仕方を学び習得したマレーシア出身の社員が働いています。経緯としては、マレーシアを始めとするアジア全体の発



新オフィス「S-LABO」ラウンジスペース

展に貢献したいという想いのもと、「マレーシアビジネスプラン」を作成し推進しています。日本で培ったシステム開発ノウハウを活かし、海外人材育成から拠点開設、現地営業活動へと進み、最終的に海外市場への進出を目指す計画です。昨今、弊社でも人材不足に非常に悩んでおり人材を補うという点もちろんありますが、それよりも私達自身もっと海外を見て学ばなければ、世界からどんどんと遅れをとってしまうのではないかと、自分も含め社員達に世界を身近に感じ考えてほしいという想いで、海外人材の採用と海外進出を進めています。冒頭「世界をつなぐ架け橋になりたい」という夢の話をいたしました。現在のITの仕事を通して、その夢に少し近づいている気がしております。みんな仲良くがモットーの私ですが、世界もみんな仲良くできたらいいのに…と思う毎日です。もちろん北海道、日本も大切ですが、自国のことだけでなく、世界中の国が平和に仲良く暮らせるように、微力ながら私も頑張っていきたいと思っております。



マレーシア駐在員事務所にて